

目次	
口絵	
序	
凡例	
総合解説	1
第一章 領主の支配	15
第一節 諸領主による村々・地域の支配	16
武家領／寺社領／錯綜した領地支配／両菅沼家固有の支配／地域支配の担い手	
第二節 年貢・諸役の賦課と徴収	43
年貢米／諸役と小物成／夫役／幕府による広域的な役賦課	
第二章 村々と地域住民	75
第一節 村政と住民構成	76
村の由緒と成り立ち／村の政治／村で起こる事件／村の記録	
第二節 村と百姓の負担	105
年貢・諸役をめぐって／強制された先納金・調達金／運上金・冥加金の納入／村入用・郡中入用の負担	
第三節 地域間のつながり	130
地域の組織／地域間の人の移動／地域の諸問題	
第三章 土地の利用・開発と災害・争論	151
第一節 土地の利用と争論	152
海浜をめぐって／田畑をめぐって／山野をめぐって	
第二節 新田開発	178
干潟の干拓／山野の開墾	
第三節 水の確保と管理	188
用水施設／水論	
第四節 災害と復旧	198
風水害／干害／虫害・獣害／地震／治水／荒地起こし返し	
第四章 町のしくみと政治	233
第一節 町のすがた	234
町のかたち／町の機能	
第二節 町の暮らし	267
さまざまな生業／町の風俗と統制	
第三節 領主と町	289
第五章 農業・手工業・商業	301
第一節 農業	302
さまざまな農作物／里山からのめぐみ	
第二節 職人と諸稼ぎ	318
鋳物師と鋳掛屋／鍛冶屋／醸造業	
第三節 商業	333

茶の集荷と販売／辛灰・炭の流通／塩の売買／質屋	
第六章 山村の生業	361
第一節 林業	362
植林と育林／山林の所有と売買／伐り出しと川狩り	
第二節 木工業・鋳業	381
杉と木挽／粉屋と木地屋／砥石山と鉛山／温泉	
第三節 山と川のめぐみ	408
茶／椎茸／炭と辛灰／狩猟・川漁・産牛馬	
第七章 海村の生業	429
第一節 漁業	430
魚猟と運上／網元と網子	
第二節 製塩と海苔養殖	461
製塩／海苔養殖	
第三節 海難救助	466
浦高札と救助心得／破船救助	
第八章 川・海の交通・流通	473
第一節 豊川水運	474
川船と船持・船人／河岸と問屋／東上分一番所／材木の管流し・筏下し	
第二節 三河湾海運	518
湊と問屋／海上輸送と廻船	
第三節 渡船と寄せ船	535
渡船／寄せ船	
第九章 陸の交通・流通	549
第一節 東海道・本坂通	550
東海道各宿の概要／人馬継立・休泊施設／宿場の生態	
第二節 さまざまな旅	581
東海道の大通行とそれへの対応／旅立ち／鳳来寺道・秋葉道とその利用	
第三節 内陸運輸の展開	606
中馬・三州馬稼ぎ／横行する抜け荷	
第十章 寺院と神社	619
第一節 寺社の運営と維持	620
寺社の組織／寺社の相続と経営	
第二節 地域社会と寺社	660
寺社をめぐる争論と事件／地域に根ざした諸信仰	
第十一章 人々の暮らしと社会	689
第一節 家と暮らし	690
家格と由緒／家の永続／人々の生涯／暮らしの記録	
第二節 社会諸集団と地域社会	716
村を訪れる宗教者や芸能者たち／差別を受ける人々と村の安全	

第三節 社会不安とその対応	728
人々困窮の諸相／民衆のたたかい／幕末期の諸情勢／ええじゃないか	
第十二章 地域に根ざす文化	757
第一節 庶民の教育と教養	758
教育と習練／俳諧・和歌・立花	
第二節 祭礼と娯楽	779
神楽と田楽／能楽と村芝居／花火	
第三節 民間の医療・薬方	792
民間の医療／薬方と薬種商	
第四節 地方知識人の学芸とネットワーク	804
地域の観察・記録／平田派国学者の活動／学芸・海外情報の収集と交換	
解説	827
史料群解説	951
あとがき	979
執筆分担	981
資料提供者及び協力者	982
愛知県史編さん関係者名簿	984
掲載史料編年一覧	992